

教育子午線

Kyoiku-Shigosen



国立大学法人
兵庫教育大学

October, 2017

vol.45



◎教育最前線

新しい学習指導要領 子どもの教育はどう変わる？

新学習指導要領 「外国語活動」への期待

10年ほど前の話です。当時、公務でタイ、ベトナム、フィリピンへ出かけました。本学の大学院カリキュラムに新規導入する短期海外研修プログラムをこれらの国で実施可能であるかどうかを探る目的でした。現地の学校を視察した中で、特に中学校での驚きの体験は、生徒たちが臆することなく我々日本人に英語で質問してくることでした。日本に行っても勉強したいがどうすればよいのかとか、将来は医者になって世界中の困った人を助けたいとか…、熱心に話すのです。彼らとのおしゃべりは楽しいひと時でした。当時の日本の状況とは言えば、中学生が外国人にしゃべりかけられると身振り手振りでやっと一言というのが普通の光景であったように思います(さすがに最近ではそんなことはなくなりましたが)。当時の東南アジアの中学生たちがこのように英語を話すことができるのは小学校からの教育であると知った時、正直言って日本は負けていると痛感しました。日本でもようやく平成23(2011)年度から小学校高学年に外国語活動が導入されました。実施に至るまで激しい賛否両論があったようです。しかし、高学年からでは遅いのです。なぜなら、上記の東南アジア諸国では3年生(あるいは2年生)からの学習がすでに普通に始まっていたからです。

今回の新学習指導要領の改訂の大きなポイントの一つは、外国語活動が小学校中学年から導入される点です。小学校では32(2020)年度の全面実施までの2年間は移行措置期間として先行実施可能となっていますが、3・4年生の「外国語活動」と5・6年生の「外国語」は、新学習指導要領の一部事項(詳細は文部科学省HPを参照)を来年度から必ず指導することとなっています。やっと日本もここまで来たという思いです。

喜んでばかりいられないのは教員の方です。ベテラン層の小学校教員は、英語に苦手意識を持つ者が多いと聞きます。新任教員にも不安はあるでしょう。しかし、子どもは敏感です。習うより慣れることで自信を持って欲しいと思います。各県・政令市の小学校教員採用試験では、英語に対する対策が既に始まっています。外国語活動研究指定校では、既に先行した取り組みがいくつも報告されています。本学でも現職教員を対象にした外国語活動の研修やセミナーを以前から始めていますし、また、「英語力向上ステーション」を学内に設置しました。これらの資産を生かしつつ、「学校ぐるみ・地域ぐるみ」の協力体制で全ての小学校教員が「外国語活動」を子どもと共に楽しんで欲しいものです。

学長 ふくだ みつひろ
福田光完

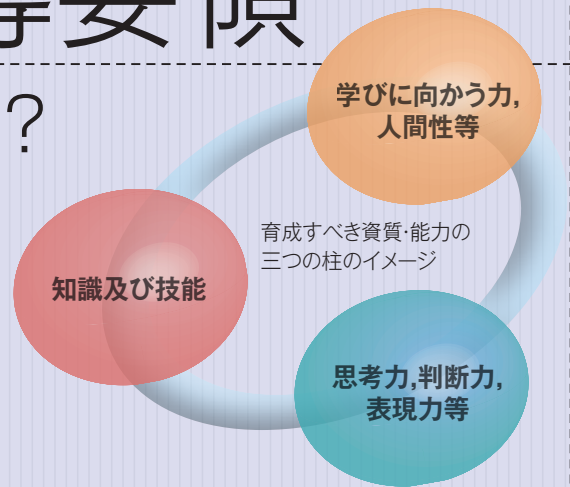
学長室から
MESSAGE



新しい学習指導要領

子どもの教育はどう変わる？

学校教育法施行規則の一部が改正され、幼稚園は平成30(2018)年4月から、小学校は32年4月から、中学校は33年4月から、新しい学習指導要領がスタートします。新しい学習指導要領って何？子どもの教育はどう変わるの？？そんな疑問を持っている方も多いはず。今回は、兵庫教育大学の教員が新しい学習指導要領の中から主な改訂内容のポイントについて紹介します。



幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領の改訂の概要

今回の改訂の基本的な考え方		
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成し、求められる資質・能力とは何かを社会と共有、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視した。 ▶ 現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成する。 ▶ 道徳教育の充実、体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成する。 		
社会に開かれた教育課程の実現に向けて育成すべき資質・能力を三つの柱で整理		
「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有して、「生きる力」を育む		
▶ 全ての教科等で育成すべき資質・能力を「知識及び技能」「思考力, 判断力, 表現力等」「学びに向かう力, 人間性等」の三つの柱で再整理し、各教科の見方・考え方を踏まえた教育課程の実現		
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善		
▶ これまでの教育実践の蓄積をしっかりと引き継ぎ、子供たちの実態や教科等に応じた指導の工夫改善を図り、育成すべき資質・能力の三つの柱が実現されるよう授業の内容や時間のまとまりを見ながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善		
▶ 「深い学び」とは、主体的・対話的な学びを通じて各教科の見方・考え方が豊かになることで、三つの柱に基づいた学習もさらに深化する循環的な過程		
各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立		
▶ 学習の基盤や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のため、教科等横断的な学習の充実		
▶ 学校全体として、教育内容、時間の適切な配分、必要な人的・物的体制の確保、実施状況に基づく改善等、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントの確立		
幼稚園における主な改善事項		
▶ 幼稚園教育において育みたい資質・能力の明確化 ▶ 5歳児修了時まで育てほしい具体的な姿の明確化		
▶ 教育内容の充実化(我が国、地域社会における様々な文化や伝統に親しむ等)		
小・中学校の教育内容の主な改善事項		
▶ 言語能力の確実な育成	▶ 情報活用能力の育成	▶ 理数教育の充実
▶ 伝統や文化に関する教育の充実	▶ 体験活動の充実	▶ 外国語教育の充実
道徳教育の充実		
▶ 道徳の特別教科化による道徳的価値を自分事として理解し、「考える道徳」、「議論する道徳」への転換		
特別支援教育に関する主な改善事項		
▶ 特別支援学級や通級による指導における個別の指導計画等の作成、活用		
▶ 計画的、組織的な、学習上の困難に応じた指導内容や指導方法の工夫		
その他の改善事項		
▶ 初等中等教育の一貫した学びの充実	▶ 主権者教育、消費者教育、防災・安全教育などの充実	
▶ 部活動の運営体制の改善	▶ 子供たちの発達の支援	

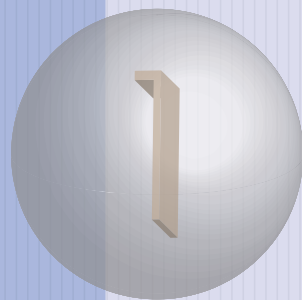
※この概要は、文部科学省の関連資料を基に大学広報室が編集したものです

「社会に開かれた教育課程」の具体化・構造化で未来を切り拓く「見方・考え方」を確実に育成

新 学習指導要領ではまず、子どもたちが未来社会を切り拓くための「資質・能力」を、各教科における「見方・考え方」を通して一層確実に育成することとなっています。それは、子どもたちに求められる「資質・能力」とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」によって実現されます。

「社会に開かれた教育課程」を教育実践として具体化するための第一歩が、各校における「カリキュラム・マネジメント」です。また、子どもたちが「主体的」に「対話」を通して「深く」学ぶような授業の在り方を実現することです。

次に、構造化することによって知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成することとなっています。ここでは「何を知っているか」だけではなく「何ができるのか」が重視されています。できるかどうかを「評価」する必要がありますので、学習評価の重要性がクローズアップされています。

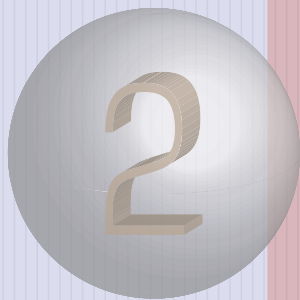


総論

授業実践開発コース
よしみず ひろや
吉水裕也 教授

育みたい「資質・能力」が明確化され遊びや生活の中での体験がより重要に

今 回の改訂のポイントは、幼児教育において育みたい「資質・能力」が明確にされたことです。幼児教育では、従来通り、環境を通して行う教育を基本に、自発的な活動である遊びや生活の中でこれらの資質・能力を育みます。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されました（「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」）。これらの項目は、到達度的な扱いにならないよう留意しながら、幼児理解や保育実践の評価の視点として新たに加えたり、小学校教員との連携・接続において5歳児修了時の姿を共有する観点にしたりすることにより、幼児教育の質の向上につながるものと考えられます。



幼稚園教育

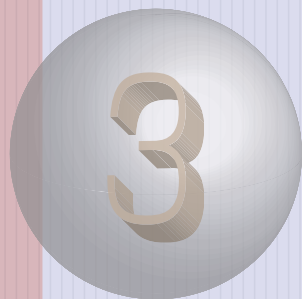
幼年教育・発達支援コース
ひらの まいこ
平野麻衣子 講師



学習活動で生じる困難さに応じた工夫や手立てが求められるように

→ のたびの小・中学校学習指導要領改訂では、特別支援教育についての記述が大きく増えていきます。中でも、各教科の「指導計画の作成と内容の取扱い」において、障害のある児童生徒などが学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を行うことが明記されたことは、多くの教員に対応が求められることでしょう。

つまり、学習を進める上で生じる子どもの学びにくさを理解し、その学びにくさに応じた手立てを講じることが求められており、これからの学校には、学習活動を支援するための工夫や手立てを校内で検討したり共有したりする仕組みも大切です。その際、授業のユニバーサルデザインや児童生徒の特性に基づいた支援についての知見を生かすことも有益でしょう。



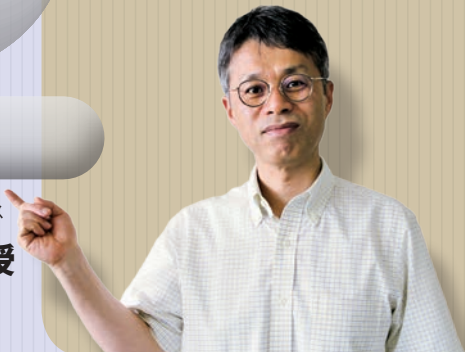
特別支援教育

発達障害支援実践コース
いしはし ゆきこ
石橋由紀子 准教授

4

道徳教育

生徒指導実践開発コース
たに だます ゆき
谷田増幸 教授



質の高い多様な指導方法を展開し 個々の成長を継続的に把握した評価を

「**特**別の教科 道徳」(「道徳科」)は、小学校は平成30(2018)年度、中学校は31年度から、検定教科書を導入して全面实施されます。問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れ、質の高い多様な指導方法を展開することが求められるとともに、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握して評価が行われます。

道徳科における評価では、数値による評価ではなく記述式とすること、個々の内容項目ごとではなく大きくりなまとまりを踏まえた評価とすること、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め励ます個人内評価として行うこと、学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視して、児童生徒の具体的な取り組み状況を一定のまとまりの中で見取ることが求められています。

学びを支える基盤となる能力育成へ ICTを活用した学習活動の充実が重要

情報活用能力とは、学習活動においてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、整理・比較したり、分かりやすく発信・伝達したり、保存・共有したりといったことができる力です。さらに、情報手段の基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等も含まれます。この能力は、言語能力や問題解決能力と同じく、各教科等の学びを支える基盤となります。

情報活用能力を育成するためには、まず各学校のICT環境を整え、各教科等でICTを適切に活用した学習活動を充実することが求められています。先生がICTを活用して分かりやすい授業をするだけでなく、主体的・対話的で深い学びとなるような児童生徒によるICT活用が重要です。



情報活用能力

授業実践開発コース
なが た とも こ
永田智子 教授

6

外国語教育

言語系教育コース(英語)
よし た たつ ひろ
吉田達弘 教授



5年生から読み書きが加わり 指導者の専門性向上が求められます

小学校での外国語科の教科化・外国語活動の早期化については、すでに文部科学省から新教材のサンプル、学習指導案例、「研修ガイドブック」などが示され、各地で研修などが進んでいます。学校では、教員の授業力の向上、1コマ増える授業時数の確保、ALT(外国人指導助手)の活用方法、児童の「資質・能力」の評価など課題が山積みです。

特に、5・6年生では、読むこと・書くことへの慣れ親しみが加わります。児童たちがいい形で文字と出合うためには、これまで以上に指導者の専門性を高めることが求められます(中学校での学習の前倒しではないことに注意!)。コミュニケーションを積極的に行おうとする児童の態度を育てるためにも、行政のさらなる支援や、学校や地域ぐるみで実践開発や環境づくりに取り組むことが必要になると思います。

学ぶことで「何ができるようになるか」を重視 より多様な学習活動が必要に

授業改善と聞いて、授業を大きく変えなければならないと心配された先生もいるかもしれません。しかし、今改訂では授業の大幅な変更を要求しません。これまでは内容習得が教科指導の中心でしたが、今回はその内容を学ぶことで「何ができるようになるか」という「資質・能力」の育成までを目指します。そのため、多様な学習活動が必要になります。

多くの先生は、子どもが興味を持ちやすい学習課題や、意見交流の機会、知識を活用させる発問など、指導上の工夫をすでに行っているのではないのでしょうか。その多くが「資質・能力」の育成につながりますから、少しでも工夫のある授業をしているなら、それを大きく変える必要はないのです。指導要領に記載された「授業改善の視点」や、学校内外の授業研究会等を利用して、今までの授業を少しずつ良くしていくことが重要です。



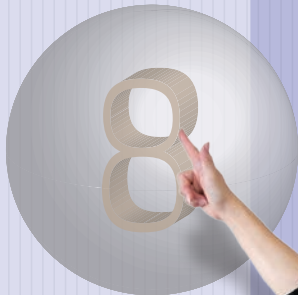
教科指導(全般)

授業実践開発コース
みやた かおり
宮田佳緒里 講師

「統合・発展」や「振り返り」をさらに大切に 「深い学び」への工夫が求められます

算数科・数学科における「深い学び」を目指すためには、特に次の2点が重要です。一つは、学習内容を理解する際、これまで学習した内容を活用して問題を解決し、得られた結果の意味を元の事象や既習の知識と結び付けて捉え直して知識や方法を統合すること、そして、それらをさらに発展させる活動を設けることです。もう一つは、学習内容を振り返る際に、問題解決の過程を振り返ることで解決方法を「方法知」として顕在化し、身に付ける学習指導を行うことです。

このような「統合・発展」や「振り返り」は従来、算数科・数学科で大切にされてきた学習・指導です。これまでの授業づくりを振り返るとともに、今日的な「資質・能力」の育成を目指すことによって、新指導要領で求められる授業づくりが実現できます。小中学校、教育委員会、大学が連携して、子どもも先生方も大学教員も、算数・数学の「深い学び」を実現しましょう！



教科指導(算数科・数学科)

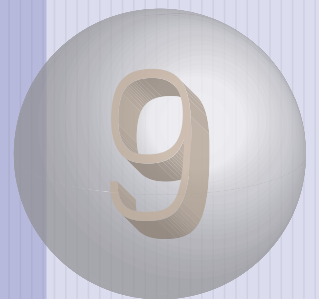
小学校教員養成特別コース
かとう ひさえ
加藤久恵 准教授



対話的な問題解決の文脈の中で知識を構築 一連の活動での「深い学び」を

理科では、主体的で対話的な問題解決の文脈(ストーリー)の中で、児童生徒が知識を構築するという「学び方」が強調されています。日常の自然事象での疑問から学習問題を導き出し、根拠のある予想を立て、見通しを持った観察・実験を行い、そこで得られた結果から問題への答えを考察するという、一連の活動がポイントです。

その中で、比較したり、関係付けたり、条件を制御したり、多面的に見たりすることを大切にします。また、日本は自然災害が多い国なので、天気、川、土地などの学習では、学んだことを災害の文脈に結び付けて捉えることも重視されています。こうして得られる理科の特徴的な見方や考え方による理解が、「深い学び」となります。



教科指導(理科)

小学校教員養成特別コース
やまもと ともかず
山本智一 准教授



かわ かみ やす ひこ
川上 泰彦
学校経営コース
准教授

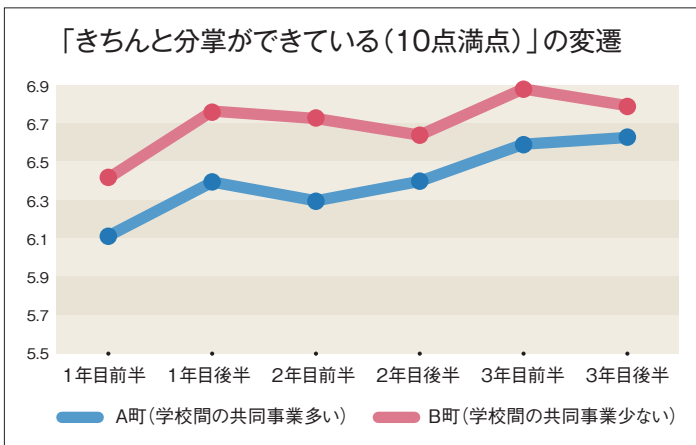
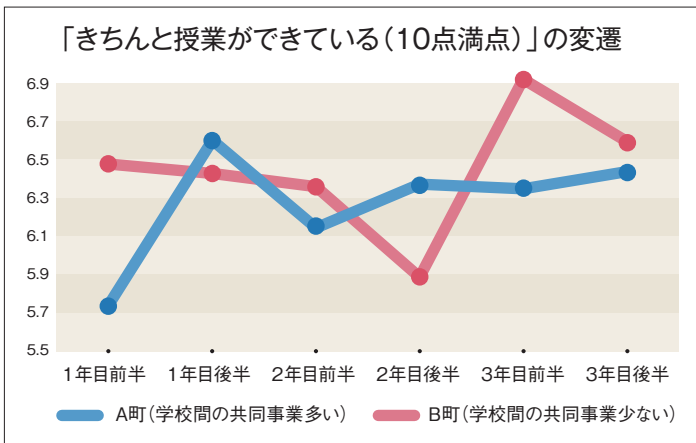
●このページでは日本学術振興会の科学研究費助成事業による助成を受けた研究を紹介し、同助成事業は、全ての分野の「学術研究」を格段に発展させることを目的に、独創的・先駆的な研究に対して助成を行うものです。基盤研究、挑戦的萌芽研究、若手研究などに分かれており、基盤研究は、一人または複数の研究者が共同で行う研究が対象。研究期間は3～5年です。

研究レポート

教員の勤務環境とその変化が職能形成に及ぼす諸影響の解明と実践的対応策の検討

(平成26～28年度科学研究費助成事業・基盤研究Cに採択)

【グラフ】他地域から転勤した教員が、時間の経過とともに職場適応を進める様子



- ▶A町もB町も山間地にあり、互いにほぼ隣接するような地理的環境です。各町内の学校は学年1学級の小規模校ばかりです。
- ▶子どもを相手とする「授業」に比べ、「分掌」の自己評価は安定的に上昇しています。
- ▶町教委が学校間の共同事業を多く実施しているA町では、他の学校の様子を見ることが多いからか、「分掌」についても「授業」についても、B町に比べて全体的に厳しめな自己評価を行っています。「相場観」がつかめる2年目以降については、自己評価が着実に上昇しています。一方、B町では2年目まで試行錯誤する様子が見られます。

今年度からは、これらの知見を学校や教育委員会に説明して教育行政や学校経営の支援を試みているほか、さらに長期的なパネルデータの構築と分析を行うべく、新たな研究を立ち上げています。

この後満足感を高めていること、教育委員会の政策が教員の適応の様子にも影響を及ぼすことなどが分かりました。また、「授業」と「分掌」では適応感の変動が異なることや、適応感を高める上では上司や同僚とのコミュニケーションが重要であることなどが分かりました。こうした全体的な傾向の整理に加え、教員間での適応の差を説明する分析も試んでいます。

公 立学校の先生たちが一定期間ごとに転勤(異動)を繰り返すのは、日本では一般的な風景ですが、国際的にはそうでもありません。また、国内でも地域によって転勤のルールはさまざま、最初に勤務した市町村の中でキャリアの大半を

過ごす地域もあれば、離島や山間地などでの勤務や、転居を伴うような転勤が行われている地域もあります。異動の経験は、個々の先生にとって、新たな適応や能力を発見・伸長してキャリアの展望を開く機会にもなります(職場への「慣れ」は、と

もすると「マンネリ」にもなり、適性の発見や能力の伸長を妨げます)。一方で、異動のたびに慣れない職場への適応が求められる状況はストレスも生まれやすく、メンタルヘルスの不調が病気休暇・病休の原因になることもあります。このように、

異動が個々の先生に及ぼす影響は、ポジティブ・ネガティブの双方が考えられます。この研究では、①異動を経験した教員はどのように職場に適応するのか、②初任(期)の教員はどのように職業と職場に適応するのかを調査・分析しました。調査

に当たっては、A先生の着任「1年目前半」「1年目後半」「2年目前半」というように、追跡的な形でデータが収集できるよう工夫し、いわゆるパネルデータの構築を試みました。

この先生にズームイン

授業との共通点を発見

数年前から週1、2回、夫婦で近所にある屋内テニススクールに通っており、「楽しくて仕方ない」と声を弾ませる。「褒めてもらうとすごくうれしい」と、学が立場になることで指導方法について改めて考える機会になっているとも。



自分でやる派

10年ほど前から、ジェルネイルを月1回のペースで自ら施している。買い足すうちに道具やカラーバリエーションはネイルサロン並みに。このところ定番のデザインはフレンチネイルで、「爪も靴も光っているものが好き」と、キラキラ光るラインストーンやホログラムはマストアイテム。



癒やしの存在

ペット飼育OKのマンションへの転居を機に、犬を飼い始めた。「本当に、親ばかだと思えます」と自覚するほど、ミニチュアダックスフントのみゅーちゃん(7歳)と、もえちゃん(5歳)にメロメロだ。



先生に質問!

A 教養科目の場合、英語が好きではない学生もいます。そういう人たちに少しでも意欲的に取り組んでもらえるよう、映画を使って講義しています。具体的には、「フォレスト・ガンプ」の劇中シーンを使って、さまざまな言語活動を行っています。学生たちは「本物の英語に触れながら勉強できるのが面白い」と言ってくれます。言葉は実際に使うことで身に付くものだと思います。自分が何を伝えたいか、そのために何が必要かを意識して学んでほしいと考えています。また、間違いは気にせず、まずは相手に伝えるという意識も持ってほしいです。学生には教壇に立ったとき、そういう指導を心掛けてもらいたいです。

Q 授業で工夫していることは。
A 音楽的な記憶力が発音力に関係しているということ。メロディーを聞いてすぐに再生できたりする人は、母語以外の言語を発音するスキルも高い傾向にあります。発音には音の高低やリズムの変化の認識が重要だということです。こうした結果を外国語指導や教材開発に応用しようと取り組んでいるところです。

Q 研究で見えてきたことは。
A 外国語習得における個人差の研究です。同じように学習しても、すぐにそのスキルを習得できる学習者と、そうでない学習者がいます。どのような要因がそうした習得の差に影響を与えているのかを研究しています。現在は特に、短期的な記憶力や音楽的な能力と英語のスキルとの関係を研究しています。

Q 先生のご専門は。
A 外国語習得における個人差の研究です。同じように学習しても、すぐにそのスキルを習得できる学習者と、そうでない学習者がいます。どのような要因がそうした習得の差に影響を与えているのかを研究しています。現在は特に、短期的な記憶力や音楽的な能力と英語のスキルとの関係を研究しています。

趣味と研究を兼ねて

映画を取り入れた指導法についても研究しており、教材探しも兼ね、週4本ほどのペースで洋画を見ている。教材向きなのは分かりやすい話し方・内容で、文化的興味を刺激する要素が含まれているもの。お薦めは米国の歴史に触れつつ、障害がありながらも純粋な心で人生を歩んだ男性の半生を描いた「フォレスト・ガンプ」と、実話を基にした「ザ・アメリカンドリーム」な作品「幸せのちから」の2本。



健康のために毎日の習慣

美と健康のため、ビタミン、ミネラル、DHA、鉄分…と体に良いと思われるさまざまなサプリメントを夕食後に欠かさず飲んでいる。「老眼を阻止するため」「記憶力維持のため」「風邪の引き始めに」とそれぞれ目的があるそうで、実際は写真の倍近い種類になるという。



近藤 暁子 准教授 言語系教育コース(英語)

平成6(1994)年神戸市外国語大学外国語学部英米学科卒業。民間企業で勤務後、大阪市立の高校の英語教諭となり、在任中に一時休職してサンフランシスコ州立大学大学院で修士課程取得(英語教育学)。その後、奈良工業高等専門学校の講師、准教授などを経て25年から現職。研究分野は英語教育学、応用言語学(第二言語習得)。授業は「英語科授業研究」(学部)、「英語コミュニケーション授業研究」(修士)などを担当している。

Q&A

同窓生からの手紙

赤穂市出身。平成21(2009)年学校教育学部学校教育系コースを卒業後、兵教大に入職。教育支援課、財務課勤務を経て、28年4月から研修生として文部科学省で研修中。



たか た ゆ う こ
高田侑子さん

兵庫教育大学総務部総務企画課付文部科学省研修生

大学での知識が今の業務に生きています

進

路に悩んだ結果、教育行政への興味から大学職員を志望し、兵庫教育大学への就職が叶いました。平成28(2016)年4月から、研修生として文部科学省へ送り出されています。

現在の担当業務は、大学の教職課程が教員免許取得のための法令等に則ったものとなっているかどうかを審査・認定するというものです。それぞれの大学は自大学の理念や方針に基づいて工夫を凝らした教職課程を組んでおり、意欲的な内容に刺激を受けています。



←難しい解釈などをよく相談しています

法令等の読み込みは大変難しく日々奮闘していますが、一方で、学生時代に基礎的な教育制度を学んだこと、そして大学職員となり実際に教職課程に携わった経験は今の自分の土台となっていると感じます。

これから進路を実現していく皆さんは、時には将来への不安に悩むこともあるかと思いますが、大学での学び、部活動、学外での経験など、積み重ねたことはきっと未来の自分の力になるはずですよ。ぜひ、恐れず、さまざまなことを吸収してください。

LETTERS FROM OB & OG

愛媛県伊予市出身。昭和58(1983)年教科・領域教育専攻自然系コースを修了。現場復帰後は教頭、指導主事、校長を歴任。平成20(2008)年退職後、えひめ理科の会会長、えひめ温泉友の会会長として活動している。



きよ た きみのり
清田公典さん

えひめ温泉友の会会長

大学院での研究を生涯にわたり生かしています!

当

時、指導教官から「君、道後温泉の近くに住んでいるのなら温泉の研究をしないか。温泉はどの地域にも存在し、子どもたちと共に研究できるし、君自身生涯の研究テーマにもなりますよ」と助言されました。この一言が、自然系理科(化学教室)の1期生として、道後温泉をテーマに修士論文に取り組みきっかけになりました。

月1回、道後温泉の現地調査、採水のため帰省。研究室で分析・まとめ。その間、現地調査の大切さを実感するとともに、生徒にも調査可能な方法を

を採ったことが現場復帰後の研究継続に大いに役立ちました。科学部の生徒と地元温泉調査をするようになったのです。

そして、退職後の平成27(2015)年に「えひめ温泉友の会」を立ち上げ、私が会長となって温泉を中心に散策や学習の活動を続けています。現在は会員も増え、輪が広がっています。並行して温泉講座、講演、出前授業も行っています。

温泉に関わる実践を今でも続けることができ、恩師や兵教大大学院のおかげだと感謝しています。



→えひめ温泉友の会の発足会の様子

▶同窓会・都道府県連携推進本部からのお知らせ

教育実践研究活動等に係る表彰について

8月5日、6日に東京都千代田区で開催した第37回大学院同窓会関東大会で、平成29(2017)年度「教育実践研究活動等に係る表彰」を行いました。この表彰は、教育実践研究活動等に顕著な成果を挙げ、大学や大学院同窓会の名誉を著しく高めた修了生が対象。今年は8人を表彰しました。詳しくはHyokyo-netをご覧ください。

◎表彰者(敬称略)

嬉野賞 / 荒井豊(2期・自然系・埼玉県)、中国大三郎(3期・生徒指導・大阪府)、
拝師暢彦(2期・自然系・京都府)

奨励賞 / 大島浩(3期・自然系・栃木県)、澁谷義人(26期・スクールリーダー・兵庫県)、
古屋光晴(34期・学校経営・兵庫県)、宮内征人(28期・言語系・鹿児島県)、宮垣覚(20期・自然系・兵庫県)

クラブ紹介 吹奏楽部



芸術棟合奏練習室(通称八角堂)前での集合写真

Data

活動場所 / 課外活動共有施設
(クラブハウス)

活動日 / 週3日

(月曜、水曜、土曜)

※本番前は日曜練習あり

部員数 / 男子5人、女子28人、
計33人

顧問 / 河内勇准教授

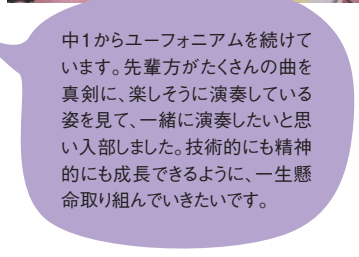
設立年 / 昭和58(1983)年

BRASS BAND CLUB

紹介者



吹奏楽部部長
すぎおかひろえ
杉岡広絵さん
学校教育学部
社会系コース3年



私たちが吹奏楽部は、夏は8月の吹奏楽コンクール、冬は3月の定期演奏会に向けて活動しています。この二つ以外にも秋には地域イベントへの参加や、小学校幼稚園での演奏会なども行っています。部員のみならず元気な人、真面目な人、マイペースな人など個性的な人が多く、衝突する時もありますが、互いに支え合えるメンバーです。皆さん楽しんでいただけるように活動していきます。今後とも吹奏楽部をよろしくお願ひします！

吹奏楽は大学から始めました。担当楽器はオーボエです。入部の動機は、入学式での演奏を聴いて、大人数での演奏が楽しそうだったので私も一緒に吹きたいと思ったからです。今後の目標は、一曲でも多く完璧に吹けるようになることです。

- ① 全体練習
- ② 河内准教授の指導
- ③④⑤ セクション・パート練習
- ⑥ 入学式での演奏風景



中1からユーフォニアムを続けています。先輩方がたくさんの曲を真剣に、楽しそうに演奏している姿を見て、一緒に演奏したいと思い入部しました。技術的にも精神的にも成長できるように、一生懸命取り組んでいきたいです。

かねがみ う
金永未羽さん
学校教育学部自然系コース(数学)1年



すぎはら はるか
杉原晴香さん
学校教育学部芸術系コース(音楽)1年

第49代「姫路お城の女王」

として昨年5月から1年間、学校教育学部4年の満田芽生さんは他の2人と共に、生まれ育った地元、観光親善大使を務めた。近所の人に勧められ、「姫路に恩返しをしたい」と応募。2度の選考を経て、40人の中から選ばれた。

ふるさとへの思いが芽生えたのは高校時代。オーストラリアへの留学当初、何を話そうかと会話に困っていた時に、ホストファミリーや同級生と打ち解けるきっかけをつくってくれたのが姫路城だった。「お堀の中に学校があったので姫路城はとも身近な存在でしたが、まさか海外の人たちが知っているとは思わなくて。会話が弾み、偉大さを再認識しました」。以降も外の世界に触れるにつれ、地元への愛着は増していったという。

お城の女王に内定してからの3カ月間は、市内各地の施設で説明を受けたり、マナーやアシスタント業務を学んだりと研修漬けの日々を送った。5月の姫路お城まつりで正式にお披露目されると、活動は本格化。北海道から九州まで各地を回り、自治体やマスコミ各社への表敬訪

問、イベント会場でのパンフレット配布やステージの上からのPR、観光業者への売り込みなど、活動の場は多岐にわたった。

「学業との両立に苦労しましたが、普段は会えないような人たちとたくさん出会い、お話を聞けたことは本当にいい経験になりました」と笑顔で振り返る。任期を全うした今、数学世界の面白さを教えてくれた高校時代の恩師のような教員になるという夢にぶれはないが、目指す教員像はより明確になったと話す。

「地域のイベント一つ一つに多くの人が尽力されていることを知りましたし、皆さんの温かさに触れることができました。こうした経験を生徒たちに伝え、支えてくれる人への感謝を忘れず、ふるさとを愛するような人に育てたいです」

言語系コースで英語を専門に学びながら数学の講義も並行して受講し、教員免許はどちらの教科でも取得できるよう努力してきた満田さんは、来春から大学院の理数系教育コースに進学する予定。「より専門的に学びを深められるのが楽しみ」と心待ちにしている。

観光親善大使の活動を通し
目指す教員像が
明確になりました



キラリな人

みつだめい 満田芽生さん

学校教育学部
言語系コース(英語)4年

平成8(1996)年、姫路市生まれ。賢明女子学院高校在学中の23年12月から1年間、オーストラリア・ブリスベンにある高校に留学し語学力を磨いた。大学ではオーケストラ部と国際交流サークル「HIC」に所属。28年5月、第49代「姫路お城の女王」に就任。今年5月まで、姫路市の観光親善大使としてふるさとの魅力を発信し、観光振興に尽力した。



「お城の女王」として姫路市の観光ブースでPR

データで見る兵教生

～「平成29年度大学概要」から検証～ 附属図書館の利用状況

**教育分野の蔵書が充実
利用目的も多様化の傾向に**

図書館の蔵書36万冊のうち、3割を教育分野が占めている。一般図書のほか、教科書・指導書など教育大学ならではの貴重な資料を整備しており、利用率も高い。

兵教大の図書館は国立教育系大学の中で最も開館時間が長く、平日は22時まで、また授業休業期を含め土曜、日曜、祝日も開館しており、多くの学生が昼夜を問わず自学自習に励んでいる。近年は静かに本を読むだけの場所ではなく、グループ学習やゼミ、インターネット利用など多目的な空間になってきている。図書館は敷居が高いと敬遠している学生にも、ぜひ気軽に足を運んでもらいたい。



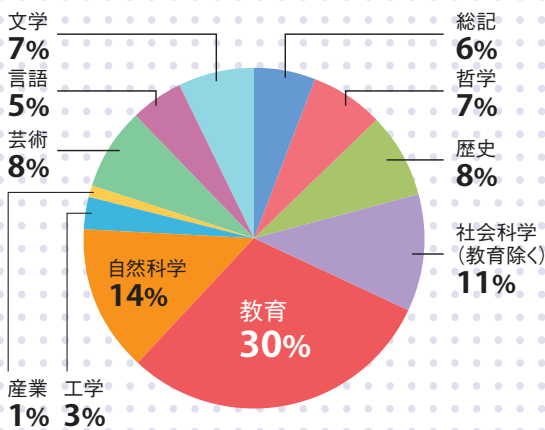
なすかわともこ
名須川知子
附属図書館長

**本を開けば
世界が広がります**

教員養成系大学・大学院の図書館として、幅広いジャンルと、特に教育に関する専門書がそろっています。中には本学にしかない貴重な教育叢書も含まれています。また、インターネットであらゆる本の検索が可能です。本は手に取ってページを開けられ、活用されて初めて意味のあるものとなります。ぜひ、興味関心のある本を手にとって開いてみてください。図書館に居ながらにして、新しい世界が広がっていくことでしょう。

HYOKYO'S DATA

蔵書の主題別割合



開館日数と年間入館者数

開館日数	340日
入館者数	11万5,281人

**豊富な専門書は
研究に役立っています**



みやうちしゅんすけ
宮内俊輔さん
修士課程
社会系教育コース1年

来日してから3年間、附属図書館に通い続けました。朝8時半に開館し、空いた時間にいつでも勉強できる居心地の良い空間です。特に、1階のラーニングcommons PAOは思いがけず友達と出会うことも多く、驚きや楽しみに満ちています。図書館のスタッフさんは、いつも声をかけてくれたり、一人では解決できない問題に優しく対応したりしてくれ、温かい雰囲気をつくり味わっています。残りわずかの留学生活ですが、引き続き利用したいと思っています。

**いつでも
勉強できる
居心地の良い
空間です**

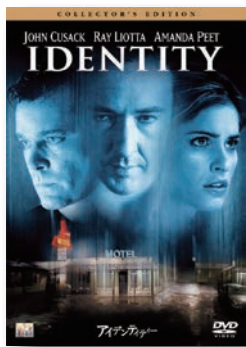
附属図書館の特色は何と言っても教科書・指導書の多さです。個人では入手し難いもので、授業づくりには欠かせません。また、教育に関する専門書も豊富で、卒業論文や修士論文の執筆の助けになっています。さらに、所蔵されていない図書も購入を依頼でき、その図書を優先的に読むことができる学生希望図書制度というありがたい制度もあります。これからも図書館を活用して研究に励みたいと思います。

りぎょうかん
李 晓歡さん(中国)
修士課程
教育コミュニケーションコース2年



ワタシのイチオシ

心に残る映画、つい口ずさむ音楽、
行きつけのスポットや思い出の一冊。
みんなにも薦めたい私のお気に入りを紹介。



さじ かつ のり
佐治克紀さん
学校教育学部
言語系コース4年

MOVIE

誰かに話したくなるサスペンス映画です

激しい豪雨が降り続く夜、人里離れた一軒のモーテルに閉じ込められた11人。極限の状況下、護送中の囚人が脱走し、一人また一人と殺されていく。犯人は誰なのか。一体何が起きているのか。怖い系が苦手なのになぜ僕はこの映画を見たのか。サスペンス、ホラー、パニックの要素がふんだんに詰まった映画です。

タイトルであり、この映画のキーワードでもある「アイデンティティ」。兵教生なら一度はどこかで聞いたことがあるはず。ぜひ、2人以上で見ることをお勧めします。見終わった後、きつとすぐに誰かと話したくなると思うので。

「アイデンティティ」
DVD スペシャルプライスで発売中！
発売・販売元／株式会社ハピネット

©2003 COLUMBIA PICTURES INDUSTRIES, INC. ALL RIGHTS RESERVED.

グローバル化コースで学ぶ原点となった曲です

海外での生活を終え、音楽専科に復帰した頃に吉岡ひとみ先生とのご縁をいただいて以来、先生の曲を授業で多く歌わせていただいています。中でもイチオシは先生作詞・作曲の「野空海」です。「どんな国 どんな人どこに暮らしても 世界中の野空海はみんなのそばにある みんなと一緒に地球はひとつ」

テロや戦争、悲しい出来事を見聞きするにつれこの曲を思い、世界の平和を願わずにはいられません。日々の生活で心が折れそうになったとき、ぜひ聞いてみてください。小さなことに悩み、一喜一憂していたことが小さく見え、元気になる曲です。

MUSIC



うじろ まみ
宇城万実さん
専門職学位課程
グローバル化推進教育
リーダーコース1年



音楽之友社編
「新・中学生のクラス合唱曲集 MIDORI～繋がる輪～」に収録
発売元／音楽之友社



かん ひよ みん
康孝民さん
修士課程
理数系教育コース1年

大原美術館
岡山県倉敷市中央1-1-15

SPOT

SNSで倉敷美観地区の写真を見て行きたくなり、友達と遊びに出掛けました。まるでドラマのセットのようで、江戸時代にタイムスリップした気分になりました。しばらく歩くと、突然ギリシャ神殿のような建物が出現。それが大原美術館でした。

江戸時代の町並みに何でギリシャ神殿だろうと好奇心が刺激されました。ドアを開けると目の前には19世紀後半から20世紀前半にかけてのヨーロッパが広がり、ピカソ、モネなど世界的な巨匠の作品を鑑賞できました。日本の江戸時代からヨーロッパへの時間旅行、皆さんも楽しんでみてはいかがでしょうか。

時間旅行が楽しめます

「子どもと正面から向き合うこと」

特別支援教育」と聞くと、難しいと感じてしまう人が多いかもしれません。本書を読むまでは、私もその一人でした。しかし、「特別支援教育」は「特別な」教育というわけではありません。

本書では、「子どもも理解や状況の確かな把握」の重要性を説いています。実践例では、「問題状況がなかなか改善しないとき、大切な情報を見落としていた可能性がある」ということを著者の失敗例から学ぶことができました。また、子どもと正面から向き合うことの大切さも教えてくれます。教員や保護者にぜひ読んでいただきたいです。

BOOK



ふじ た あき と
藤田朗人さん
専門職学位課程
授業実践開発コース2年



田中克人
「職人技に学ぶ 気になる子を確実に伸ばす特別支援教育—通常学級における支援のコツ—」
ジヤース教育新社

URESHINO BULLETIN BOARD

公開授業

「グローバルイシュー論」

グローバル人材をいかに育てるか

専門職学位課程に設置されているグローバル化推進教育リーダーコースの授業を一部公開します。



講師:

ロバート・フェルドマンさん
(モルガン・スタンレー・MUFG
証券シニア・アドバイザー)

12月3日(日) 13:40~
15:10(受付13:00~)

神戸ハーバーランド
キャンパス・兵教ホール

無料

④ 本学ホームページ (<http://www.hyogo-u.ac.jp/>)
トップ「イベント情報」をご覧ください

⑤ インベティプラボ(神戸ラボ) ⑥ 078・335・8820
⑦ global@hyogo-u.ac.jp

教材文化資料館平成29年度後期展 学生服—時代と共に—

今回のテーマは「学生服」。学生服が制定されて以降、その教育的意義や児童生徒の受け止め方が時代とともにどのように変化してきたかを概観し、現代における役割を再考する機会となるような展示になっています。生徒手帳の誕生や第二ボタンの話、思い出の制服コーナーも。展示を見ながら学生服について考えてみませんか。



↑尋常高等小学校卒業写真 昭和6(1931)年

10月2日(月)~2月28日(水) 8:30~22:00(土曜・日曜・祝休日10:00~17:00)

⑧ 教材文化資料館(附属図書館内)

⑨ 11月18日(土)、23日(水)、12月28日(水)~1月4日(水)、13日(土)、14日(日)、23日(水)、2月25日(日)、26日(月)

⑩ 教材文化資料館 ⑪ 0795・44・2362

平成29年度課外プロジェクトが決定

学生生活の一層の充実を図ることを目的に、大学院生、学部生が自主的に企画した取り組みに対し活動資金を支援する事業。今年度は下記の3件が採択されました。

【今年度採択の課外プロジェクト】※敬称略

子どもチャレンジ!プログラミング2017

福井昌則(大学院修士課程生活・健康・情報系教育コース2年)

世界とつながる日本

~カンボジアから学ぼう、感じよう、考えよう~

笠原健志(学校教育学部学校教育系コース3年)

夢プロIN兵教 栄栗(しろう)と兵教をつなぐ

阿曾奈生(大学院修士課程教育コミュニケーションコース2年)

↓平成28年度成果報告会の様子



子育て支援ルーム 「かとうGENKI」 家族でわくわくデー



6月11日 加東キャンパス

子育て支援ルーム「かとうGENKI」では、「おとうさん、おじいちゃんのおべんとう作りに挑戦!」を企画し、10人の父親たちが参加。完成後は家族でお弁当を楽しみ、「丁寧に教えてもらい分かりやすかった」「お弁当のクオリティーに驚いた」との声が寄せられました。この模様はラジオ関西で放送されました。



教材文化資料館×武庫川女子大 連携展示を開催中

7月~12月 武庫川女子大学

教材文化資料館で平成28年度に開催した「ノート指導」展と「夢と青春の修学旅行」展を、武庫川女子大学中央図書館2階のグローバルスタジオと6階のアクティブラーニングスタジオで、12月16日(土)まで展示中。資料館初の試みで、今後もこのような連携企画を継続していく考えです。



教材文化資料館

「インクルーシブ教育に向けて」展コラボ企画イベント さあ!インクルーシブ教育の大航海へ

7月29日 附属図書館PAO・ライブラリーホール

教材文化資料館「インクルーシブ教育に向けて」展の関連イベントとして、「アクティブラーニング×ICT」をテーマにパネルディスカッションを実施。その後、アクティブラーニング実践型ワークショップを行いました。参加者からは、「参加型の学びが大変良かった」と好評でした。



大学院同窓会総会・ 研究会関東大会

8月5日~6日 アルカディア市ヶ谷私学会館

37回目の大会に、25都府県の修了生・在学生や大学関係者142人が参加。総会・研究会大会では、教育実践研究活動等の表彰、福田光完学長の講話のほか、東京学芸大学教職大学院の永田繁雄教授による記念講演も行われました。翌日は4コースに分かれて東京の名所旧跡などを巡視しました。



現場の課題にお答えします!

学習ソフトウェア情報研究センター主催
「第33回学習デジタル教材コンクール」で
優良賞を受賞

大学院修士課程生活・健康・情報系教育コース2年の福井昌則さんが、「アクティブラーニングを促進する数学的ゲーム・パズルを題材としたiOSアプリケーション教材の開発」で受賞。福井さんは「自身で開発したアプリが評価され、とてもうれしい。今後さらに開発を行い、教育に貢献していきたい」と意欲を見せる。



岡崎渉助教が
留学生教育学会優秀論文賞を受賞

留学生教育学会が刊行している「留学生教育」第21号に掲載された研究ノート「上級日本語学習者による独話的発話の使用実態」が評価され、今年8月に受賞。岡崎渉助教は「今回の受賞を励みに、より良い日本語教育、ひいては多文化共生社会の実現のため努めていきたい」と喜びを述べた。



森山潤教授が日本産業技術教育学会の
学会賞(論文賞)を受賞

平成22(2010)年度大学院修士課程生活・健康・総合内容系コース修了生の山尾英一さんとの共著論文「工業高校生の在籍時における職業に対する自己効力感の就職後の変容に関する事例検討」が評価され、今年8月に受賞。森山潤教授は「今回の受賞を励みに、今後も技術教育の発展に資する研究を積み上げていきたい」と語った。



もり た ひろ ゆき
森田啓之

生活・健康・情報系教育コース准教授

部活動の教育課程上の位置付けについて教えてください。
また、顧問になった際に、平日や土日の活動は
どのような時間スケジュールが望まれますか。



キャンパストピックス

部活動というのは、課外との時間に同好の仲間が集まり、共通の目的に向かって自主的・自発的に課題解決に取り組む活動であり、それを教員が支援するというのが本来の姿です。したがって、「やる／やらない」は生徒自らが判断すればよいのですが、現実には生徒にとっても教員にとってもそうならないこと、最近耳にする「ブラック部活」という言葉からも明らかでしょう。「やりすぎ部活」は、生徒にとっては学業(勉強)の時間を削ることになるだけでなく、疲れが

取れないまま学校生活を送ることになりますし、教員は本来の業務(正課の授業の準備等)が不十分になり、さらには家庭に対する影響も指摘されてきました。その原因はというと、「学校教育の一環」と誰もが認める部活動ですが、正課の授業とは違って、課外である部活動には教科書がありませんし、教える内容が必ずしも明確になっていない点にあります。内田良(2017)が「善いことに向けての暴走」と表現するような、際限のない「やりすぎ部活」が出来上がって

しまうのです。したがって、具体的な活動の時間設定は、目の前の生徒の実態により異なってきますが、生徒にとっても教員にとっても「正課」の活動に好影響を与える、あるいは「学校生活や家庭生活に悪影響を及ぼさない」範囲・基準を、教員がまず持つ必要があると思います。そのためには、「ノー部活デー」などを各自自治体が設定するという動きとともに、各学校でその範囲・基準について議論をしていかなければならないのではないかと思います。

QUESTION & ANSWER

兵庫教育大学からのお知らせ

㊦=申し込み先 ㊧=問い合わせ先

平成30年度学生募集 大学院連合学校教育学研究科(後期3年だけの博士課程)

専攻別学生募集人員

専攻	連合講座	募集人員
学校教育実践学専攻	学校教育方法 学校教育臨床	10人
先端課題実践開発専攻	先端課題実践開発	5人
教科教育実践学専攻	言語系教育 社会系教育 自然系教育 芸術系教育 生活・健康系教育	17人
合計		32人

㊦出願期間 12月1日㊦～8日㊦(消印有効)

㊦試験日 30年2月18日㊦

㊦実施場所 神戸ハーバーランドキャンパス(神戸市中央区)

㊦学生募集要項(出願書類)の請求方法 封筒の表に「博士課程学生募集要項請求」と朱書きし、角形2号の返信用封筒(請求者の郵便番号、住所、氏名を明記し、300円分の切手を貼り付けたもの)を同封して郵送で請求してください。また、ホームページからも請求できます。

㊦請求先 〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1 兵庫教育大学入試課

㊦入試課 ㊦ 0795-44-2067

大学院学校教育研究科 説明会

大学院学校教育研究科(修士課程、専門職学位課程)の教育課程や専攻・コースの概要などを説明します。個別相談や修士・在学生の体験談を紹介する時間も設けます。

㊦開催日 12月23日㊦、30年1月6日㊦、20日㊦※13:30から

㊦場所 神戸ハーバーランドキャンパス(神戸市中央区)

㊦㊧広報・社会連携課

㊦ 0795-44-2359 ㊦ 0795-44-2320

㊦ office-koho@hyogo-u.ac.jp

大学院入学相談室

大学院学校教育研究科(修士課程、専門職学位課程)への入学希望者を対象に、電話、ファクス、メールで相談を受け付けます。

㊦㊧大学院入試相談室

㊦ 0795-44-2359 ㊦ 0795-44-2320

㊦ office-koho@hyogo-u.ac.jp

第36回大学祭(嬉望祭)

今年のテーマは「Will be Fine ～つながるつたわる～」。スマートフォンが普及してきた現代、Wi-Fiが必要不可欠となりました。どこでもつながるWi-Fiのように、兵教生みんながつながりを大切に、一つの大作を作っていくという思いを込めています。模擬店やクラブ活動発表、附属幼稚園による企画などのさまざまな企画イベント、芸能人のステージやバンド演奏など盛りだくさんの内容です。

㊦開催日 11月11日㊦、12日㊦

㊦場所 加東キャンパス

㊦学生支援課

㊦ 0795-44-2051 ㊦ 0795-44-2049

㊦ office-gakusei-t@hyogo-u.ac.jp

㊦取材風景

社中学校、東条中学校から「トライやる・ウィーク」でやって来た中学生に、取材を体験してもらいました。慣れない写真撮影に悪戦苦闘しながらも、無事終えることができました。



平成30年度 園児・児童・生徒募集

附属幼稚園

㊦募集人員

3年保育(3歳児)40人

2年保育(4歳児)20人

※30年4月1日時点での年齢

㊦出願期間 10月16日㊦～20日㊦

㊦選考結果発表、抽選日 11月18日㊦

㊦附属小学校事務室 ㊦ 0795-40-2218

附属小学校・中学校

㊦公示日 11月1日㊦

㊦附属小学校事務室 ㊦ 0795-40-2218

附属中学校事務室 ㊦ 0795-40-2224

附属幼稚園研究発表会

研究テーマ「保育の質を高めるために一子供のよさが学びにつながる保育に向けて」

㊦日時 12月2日㊦9:00～16:00

㊦場所 附属幼稚園

㊦内容 保育公開、研究協議、講演会

㊦㊧附属幼稚園(担当:壺井)

㊦ 0795-40-2227 ㊦ 0795-40-2228

㊦ kinder@hyogo-u.ac.jp

http://www.hyogo-u.ac.jp/kinder/

附属小学校研究発表会

研究テーマ「子どもと教師が共に高め合う学びのデザイン～これからの子どもに必要な資質・能力を問直すことから～」

㊦開催日 30年1月26日㊦、27日㊦

㊦場所 附属小学校

㊦内容 授業公開、講演会、分科会

㊦附属小学校(担当:指熊)

㊦ 0795-40-2216 ㊦ 0795-40-2219

㊦ element@hyogo-u.ac.jp

http://www.hyogo-u.ac.jp/element/

国際シンポジウム 「幼児教育におけるESD」

〈第1部〉自然の恵みと防災教育

㊦開催日 11月19日㊦13:00～17:00

㊦場所 神戸ハーバーランドキャンパス

(神戸市中央区)

㊦内容 学長あいさつ、講演「幼児防災教育について」、シンポジウム「幼児防災教育とESD」

〈第2部〉ESDとラーニング・ストーリー

㊦開催日 11月26日㊦13:00～17:00

㊦場所 神戸ハーバーランドキャンパス(神戸市中央区)

㊦内容 講演「ニュージーランドの幼児教育におけるESD」、鼎談「ラーニング・ストーリーから学ぶこと」

㊦㊧就学前教育カリキュラム研究開発室

㊦ 0795-40-2235 ㊦ 0795-40-2203

㊦ pro-genki@hyogo-u.ac.jp

http://www.hyogo-u.ac.jp/preken/



兵庫教育大学古本募金のお知らせ



読み終えた本やDVDなどを提供すると、その査定換金額が兵教大に寄付され、本学の教育研究活動の充実や学生の奨学への支援などに役立てられます。皆さまからのご支援をお待ちしています。

㊦附属図書館

㊦ 0795-44-2060 ㊦ 0795-44-2059

㊦ office-tosyo-t@hyogo-u.ac.jp

http://kishapon.com/hyogo-u

▶▶編集後記

★今号から「教育子午線」の編集に参加しました。今まで何気なく手に取っていた広報誌でしたが、想像以上に多くの人の協力を得て作成されていることや、完成までの工程の多さを知り大変驚きました。今後もしっかりと読みやすい広報誌を皆さまにお届けできるよう、努力していきます。(な)

※バックナンバーは兵庫教育大学ホームページをご覧ください

㊦あなたの声を聞かせてください

「教育子午線」では、読者の皆さまの声を生かした誌面づくりを目指しています。はがきかメールでご意見、ご感想を寄せていただいた方にオリジナルのボールペンまたは付箋紙を進呈します。

【あて先】

〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1

兵庫教育大学大学広報室

㊦ 0795-44-2431 ㊦ 0795-44-2320

㊦ office-koho@hyogo-u.ac.jp



兵庫教育大学モバイルサイト



スマートフォン



携帯電話